

令和7年度 和土小学校第3回学校運営協議会 報告

【日 時】 令和8年2月17日（火） 9時00分～11時00分

【会 場】 さいたま市立和土小学校 多目的室

<次 第>

1 開会

2 授業参観（1校時）

3 教育長メッセージ動画視聴

4 校長あいさつ

5 学校評価について

（1）児童・保護者・職員による学校評価報告

（2）学校自己評価結果について

（3）学校運営協議会による評価について

- ・協働的な学びができていると感じた。教員の努力と工夫で児童をあきさせない取組をしているので、今後も継続するとよい。
- ・長い間和土小に関わっているが、児童が安心して学習をしていると感じた。人数が少ないことのよさができている。互いによく知っているので、信頼関係ができている。
- ・ICT機器の活用は重要なことだが、家庭ではスマホなしではいられない児童も増えている。学習に効果的な部分のみの使用も考えていく必要がある。
- ・「協働的な学び」で大事なことは、「学び方を学ぶ」ことである。多くの学び方から最善な学び方を選択できるように、多くの他者と関われる力を育てることを大事にしてほしい。
- ・「花笑み教育」については地域のよさを生かした大変素晴らしい取組が多いが、保護者や地域に伝わり切れてない部分があるので、今後浸透させていく方法を考えてほしい。
- ・「あいさつ」については、コロナによる影響も長い目で考えていく必要がある。

6 子どもいじめ防止対策委員会

- ・3学期の児童の様子について報告した。
- ・いじめの実態の報告を行った。
- ・さいたま市「ストップ!いじめ」子どもサミットにおける城南中学校区の取組について報告を行った。

7 令和8年度学校運営に関する基本的な方針の仮承認について

- ・学校教育目標、目指す学校像、目指す職員像、学校経営方針、学校経営方針の具現化について説明し、出席委員より仮承認を得た。

8 熟議 「明るく 楽しく 元気よく あいさつができる 和土っ子」を目指して

- ・地域によっては、児童の姿が朝しか見られないこともある。また、児童全員が必ずしも「明るい」というわけではない。声をかけても振り向きもしないこともある。だからといってあきらめるのではなく、声をかけることを続けていくことが児童の成長に必要なことだと思う。
- ・顔なじみになると、児童はあいさつを返してくれるようになったので、地域が学校と関わることは大切だと思う。学校だけであいさつを指導しても、学校の中だけであいさつをするものだと児童は思うのかもしれない。本来は家庭で行うべきである。
- ・今年度の読解力向上の取組はよかった。読書活動推進のための外部講師を招いての研修の実施（ビブリオバトルなど）は自分も参加してみたいと思った。今後も継続してほしい。
- ・自治会としては児童と地域とのつながりを大切にしていきたい。和土住宅の祭りは、他の地域の児童も集まり、つながりを感じる良い機会になる。地域の日常の活動は今後も残していく努力をしていきたい。
- ・児童を中心として、学校と地域をつなげていきたい。チャレンジスクールでは大変多くの地域の方々の力を借りて、児童の五感を通しての体験を重視する活動を行っている。
- ・医療の視点を教育活動に役立てていきたい。医療は個とのかかわりなので、学級経営という集団でのかかわりの支障にならないような形を模索していきたい。「誰かを支えようとしている人こそ支える必要がある」と考えている。今後教員との関係性を深めていき、児童の発達特性に寄り添い、学校を支えていきたい。
- ・自分自身が「明るく 楽しく 元気よく」仕事をしていきたい。児童も、教職員も心理的安全性を確保し、「できないことも認める」ということが大事であると考えている。
- ・教職員間、教職員と地域間の風通しが非常によく、大変良い雰囲気であることが児童によい影響を与えていると思う。学校の努力は大きいと思う。

9 その他

- ・「令和7年度学校運営協議会委員アンケート調査」への協力をお願いした。

10 閉会